

【第3号議案】事業計画の件

本計画は総会議論に従い議事録記載の通り体制図関連の記述を削除し、赤文字を追記した。

2015年度事業計画

・国際会議開催事業

2015年12月9日から11日の3日間、これまでと同様に一般社団法人映像情報メディア学会（ITE）と Society for Information Display（SID）の主催で、大津プリンスホテルにて第22回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW '15）を開催する。1200人規模の参加者をターゲットに収支バランスさせての開催を目指す。

中長期計画及び体制は組織委員会と連携して決定する。

今回、京都近くでの開催で参加者増が期待できるが、会場費が高いなど支出も増えることから、目標の参加者1100人では、科研費を含めた助成金を獲得した上で、参加費を5000円アップさせて、なんとか収支バランスが取れる状況である。そこで、助成金なしでも収支バランスが取れる健全で強固な財政基盤を構築するために、デモセッションの拡充や新たなイベントを積極的に推進し、新たな分野の参加者数を増やすことで、2014年並の1200人を維持する施策を講じる。今回は、それでも結果的に赤字となってしまった場合には引当金から補てんするが、次年度に向けて、会場選定を含めた中長期的な繰越金の蓄積・投資計画を立て戦略的に資産を維持管理するしくみを構築し、財務基盤を補強する。

・記念事業その他

予定なし

中長期計画

・国際会議開催事業

2016年は、AD共催、3D-SAとのジョイント

日本人以外で参加者の多い台湾、韓国からの便利が良い福岡での開催を選定し、参加者増による収支バランス、黒字化を目指す。

課題として、福岡は、地域からの補助が少ないため、支出削減とともに、場所による参加者増だけに頼らず、新しい分野の技術者を取り込み活性化させるために、セミナーやデモセッション拡充を含めた新たなイベントによる参加者数アップを目指す。

さらに中長期的には、IDWの材料、デバイス、システムが縦方向に融合して議論できる場としての特徴を生かして、ディスプレイ分野にとどまらず、照明、半導体、AR、VRなどのインタラクティブ、インターフェース技術などへと横方向にスコープを広げるとともに、アカデミックな組織として科研費などの活動費申請を可能とする組織へと進化させる。具体的には、当法人に設置した国際会議委員会で、3つ以上の協賛学会を加盟してもらうことによる日本学術会議協力学術研究団体の称号取得活動を推進する。

・著作権関連

2015年度以降、ITE、SIDだけでなくIDWもProceedingsの著作権を獲得することにより、論文のオンライン公開等IDWの活性化施策を主体的に実施する。